

東北ハイテク研究会

ニュースレター (No.21 2018.6)

(東北食農ネットワーク T-FAN)



東北食農ネットワーク” T-FAN” 第21号をお届けします。

第21号では、2018年6月28日に仙台で開催しました東北ハイテク研究会の総会で可決されました東北ハイテク研究会の2018年度の産学連携事業の活動計画について報告します。

2018年度 東北ハイテク研産学連携支援事業について

本年度の産学連携支援事業で重点的に取り組む事項－1

1) 新たな作物品種の普及支援

新たな作物品種（業務用米多収米（ゆみあずさ）、低アミロース米（きらほ）、高アミロース米等、新たな機能を持った米の品種）、小麦品種（もち姫、銀河のちから、ゆきちから、ねばりごし）、機能性が高い大豆品種（貴まる）、さつまいも品種（クイックスイート）、そば品種（にじゆたか）等に対するニーズ把握、PR活動による普及、加工利用などの事業化支援を行う。

<具体的な支援内容>

アグリビジネス創出フェアでのPR、商品開発のための企業へのマッチング、製品PRセミナー、農家・法人への生産PR、事業化支援ファンドへの応募支援

2) 薬草栽培の普及

薬草栽培の普及を図るため、各種の勉強会、圃場見学会などの支援活動を展開する。

<具体的な支援内容>

岩手町の薬草栽培圃場の見学企画

本年度の産学連携支援事業で重点的に取り組む事項－2

3) 商品化・事業化の支援

①東北農研等が育成した新品種を活用した商品開発・事業化の支援

もち姫、貴まるについては、新たな加工品の開発を支援する。

②東北農研が開発したスマホを活用した遠隔施設・圃場の管理システム

昨年のアグリビジネス創出フェアに出品し、企業からオファーがあった当該システムのさらなるPR、商品化、普及を支援する。

③東京農大・東北農試が開発したマーケティング、合意形成支援ツールの商品化支援

東北農研が25年前に開発した住民合意形成支援システムTN法（東北農試法）を、東京農大がスマホやパソコンを利用して実施できるように改良するとともに、多様な分析機能を追加した。当該システムの普及・商品化を支援する。

4) 研究開発プラットフォーム設立・既存プラットフォームへの参加の支援等

「イノベーション創出強化研究推進事業」の意義の啓蒙、応募者・採択者の確保を実現するため、支援活動を強化する。

本年度の産学連携支援事業で重点的に取り組む事項－3

5) 競争的研究資金の応募・獲得支援

①イノベーション創出強化研究推進事業

平成30年度の応募支援実績（14件支援、6件書類審査通過）ならびに審査過程を徹底的に分析し、資金獲得のためのノウハウを蓄積して普及する。また、有望な課題については、事業化可能性調査を獲得して、さらなる研究発展の実績を蓄積できるようにする。この点に関しては、6月28日の講演会で報告する。

②その他の研究資金、6次産業化・農商工連携事業化支援への応募支援

農林水産省、その他の省庁、都道府県、民間団体等が募集している各種の支援事業への応募を支援する。

本年度の産学連携支援事業で重点的に取り組む事項－4

6) シンポジウム、セミナーの開催計画

東北食農連携ネット(FACNeT)講演会

○知恵と工夫と住民力で中山間地域農業の未来を切り開く

－福島県ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の挑戦－

ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会前理事長 武藤 一夫 氏

○競争的外部資金を獲得するためには

－イノベーション創出強化研究推進事業への対応－

東北地域農林水産・食品ハイテク研究会事務局長 門間 敏幸

日時：平成30年6月28日（木）14：15～16：30

場所：TKPガーデンシティ仙台（仙台駅前）

本年度の産学連携支援事業で重点的に取り組む事項－5

「第2回女性経営者セミナー 酪農経営の高付加価値化を考える」

<目的>

元気な女性経営者が多い東北の酪農経営の新たな発展方向を探る。

特に、輸入に頼っている発酵微生物から国産微生物を用いてブランド価値が高い国産ナチュラルチーズ開発に関する研究開発の最前線を紹介し、夢のある酪農経営の実現に向けた方向性を示すためのセミナーを開催する。

<主たる先端技術・支援政策の紹介機関>

農研機構 畜産研究部門

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課

<参集範囲>

東北地域内の酪農女子

<開催時期・場所>

平成30年11月 岩手県盛岡市

本年度の産学連携支援事業で重点的に取り組む事項－6

「鳥獣害防止対策の最前線－英知を結集して農家を守る」

<目的>

高齢化・耕作放棄地の増大は、クマ、イノシシ、シカなどの野生動物による人間の生産・生活圏への急速な侵入となって現れ、生産だけでなく安全の脅威になっている。鳥獣害防止対策に関わるユニークな研究の最前線を紹介するとともに、研究・行政・企業・生産者・生活者が一体となった防止対策を提言するためのセミナーを開催する。

<主たる先端技術>

1) 低密度地域におけるシカ被害予防手法（山形県森林研究研修センター）

2) クマの防除技術（現在検討中）

<共催>

日本農業労災学会

<参集範囲>

鳥獣害被害で困っている東北各地の農家、行政・研究機関職員

<開催時期・場所>

平成30年12月 秋田県内

本年度の産学連携支援事業で重点的に取り組む事項－7

各種勉強会の開催（関係者中心）

- 1) もち小麦（もち姫）の多様な加工開発
- 2) さつまいも、いちご等の品種の普及・加工品開発
- 3) 地域農業の担い手支援

- 4) **手軽にできるスマート農業第1弾**
ネットワークカメラや twitter を利用したスマートフォンでの施設の遠隔監視
- 5) **手軽にできるスマート農業第2弾**
スマートフォンを利用した消費者ニーズ分析と地域づくりの合意形成
（進化した TN 法）
- 6) **手軽にできるスマート農業第3弾**
東北農研、福島農業総合センターなどからの話題提供を想定

会員の皆様からの新たな産学連携支援事業の提案を募集します

なお、上記の産学連携支援事業の計画にこだわることなく、東北ハイテク研究会では、新たな産学連携支援事業の取り組みについて会員の皆様からの提案を募集しています。研究会の活動がマンネリ化したり、コーディネーターの独りよがりにならないよう、斬新な提案を歓迎します。東北ハイテク研ホームページもしくはメールなどから活動に関するアイデアをお寄せください。お待ちしております。